2024年度

柔道整復科3年

シラバス

卒業時の到達目標

柔道整復師の業務と活躍の場を正しく理解し、進むべき道を自ら決定し各現場に適応するとともに、他の医療従事者との連携を重視し、地域社会に誠意を持って貢献することができる。

<u>３年次の概要</u>

前期は、患者の診察から施術、治癒に至るまでの施術プランの作成及び指導管理までの一連の流れを座学授業の中でシミュレーションし、必要となる技術を実技授業で修得する。付属施術所実習においては前述の流れを患者さまに実践することにより、卒後の現場に自信を持って羽ばたくための集大成となる授業を展開する。後期は、国家試験の対策に重点を置き、これまでに学んだ知識の整理を行い確実な合格につなげる。

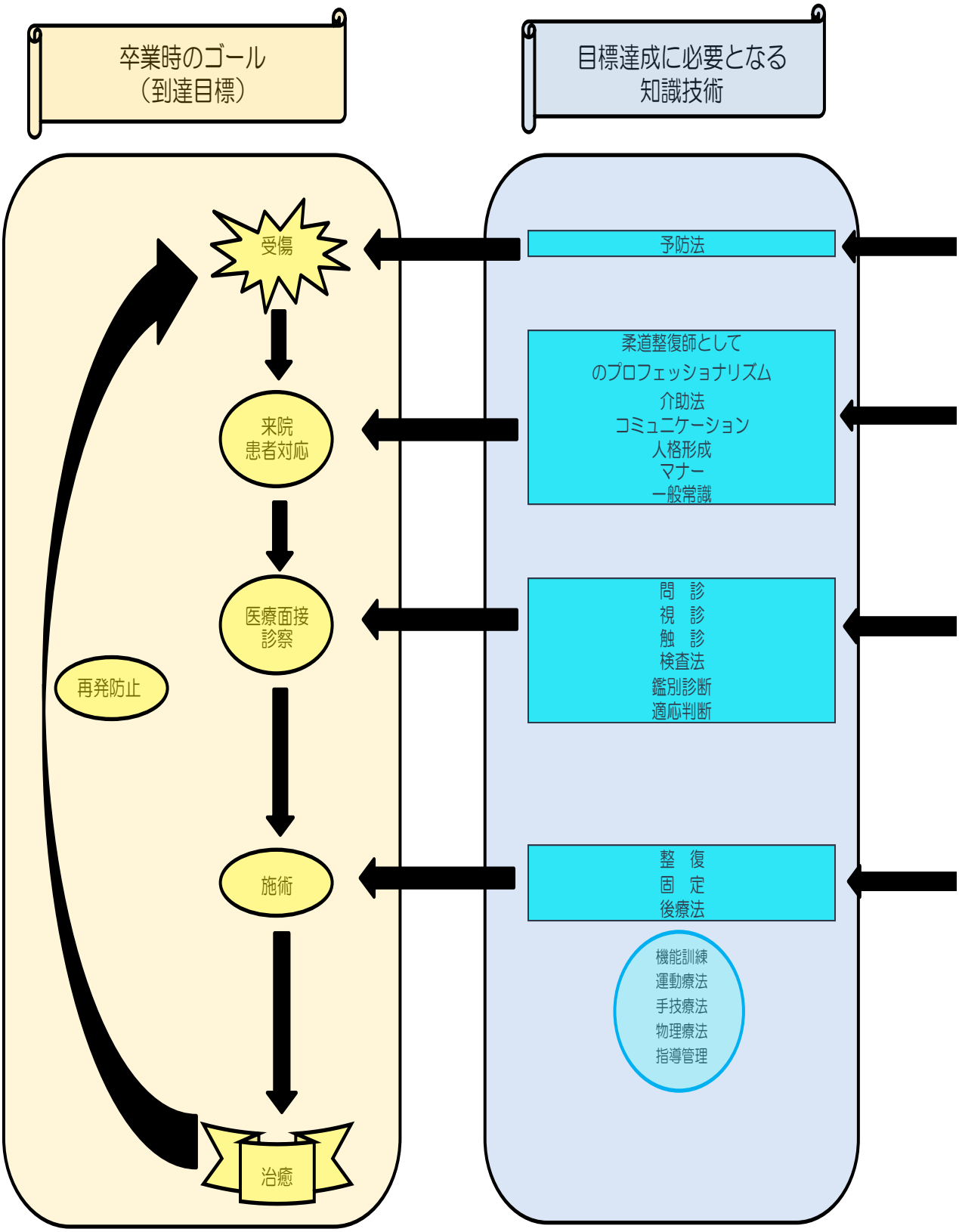
<u>２年次の概要</u>

１年次に修得した基礎知識を基に実践的な知識技術を学ぶ。座学授業においては身体各部のケガの概要を理解するとともに、整形外科や内科学をはじめとする医学の知識を合わせて修得し、柔道整復の施術適応の判断能力を獲得する。実技授業では実践的な徒手検査法の技術、外傷予防のためのトレーニング及びストレッチの手法を学び、この技術を臨床実習で患者さまに実践していく。また付属施術所実習においては、患者さまへの問診から診察までの流れを実践するとともに、保険の取り扱いについても学ぶ。

<u>１年次の概要</u>

基礎となる医学用語を理解するとともに、柔道整復師としての職業意識の向上に重点を置く。職業への倫理観、社会人としてのマナー、一般常識、立ち居振る舞いを授業及び臨床実習を通じ身に付ける。また身体の構造機能の基礎、怪我の基礎についての理解を深め、実技授業では診察の基本的手法及び固定法の技術を身に付け柔道整復師への第一歩を踏み出す。

卒業時の目標とカリキュラム構成イメージ



知識技術修得のための設定科目

- 柔整人体構造機能学基礎
- 運動器の機能構造Ⅰ
- 運動器の機能構造Ⅱ
- 解剖学
- 生理学

- 高齢者競技者の
- 生理学的特徴と変化Ⅰ・Ⅱ
- 人体機能回復論

- *外傷予防法（実技）*

- 職業倫理
- 関係法規
- 総合基礎Ⅰ・Ⅱ
- 健康の意義
- *柔道（実技）*
- 疾病と障害
- 社会保障制度

- 柔整外傷論基礎
- 柔整外傷保存療法
- 柔整後療治療論
- 柔整応用治療論
- 体幹の損傷・治療論
- 上肢の損傷・治療論
- 下肢の損傷・治療論
- 軟部組織損傷・治療論
- 総合柔道整復論
- 柔整関連医学

- *基本診察治療法（実技）*
- 柔道整復術の適応と鑑別
- 外科診断治療学Ⅰ・Ⅱ
- 内科診断治療Ⅰ・Ⅱ

- *固定法Ⅰ（実技）*
- *固定法Ⅱ（実技）*
- *応用診察治療法（実技）*
- *柔整応用治療法Ⅰ（実技）*
- *柔整応用治療法Ⅱ（実技）*
- *柔整後療法（実技）*

臨床実習

単位充当表

	教育内容	授業科目	授業形態	単位数	1学年		2学年		3学年		計	
					単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数
基礎分野	科学的思考の基礎 人間と生活	総合基礎Ⅰ	講義	14	10	150					10	150
		総合基礎Ⅱ	講義				4	60			4	60
	小　計			14	10	150	4	60			14	210
専門基礎分野	人体の構造と機能	運動器の機能構造Ⅰ	講義	22	8	144					8	144
		運動器の機能構造Ⅱ	講義						2	36	2	36
		人体構造学	講義				4	72			4	72
		人体機能学	講義				4	72			4	72
		高齢者・競技者の生理学的特徴と変化Ⅰ	講義		2	36					2	36
		高齢者・競技者の生理学的特徴と変化Ⅱ	講義				2	36			2	36
	疾病と傷害	疾病の成り立ち	講義	14			2	36			2	36
		人体機能回復論	講義				4	72			4	72
		内科診断治療学Ⅰ	講義				2	36			2	36
		内科診断治療学Ⅱ	講義						2	36	2	36
		外科診断治療学Ⅰ	講義				2	36			2	36
		外科診断治療学Ⅱ	講義						2	36	2	36
	柔道整復術の適応	柔道整復術の適応と鑑別Ⅰ	講義	4			2	36			2	36
		柔道整復術の適応と鑑別Ⅱ	講義						2	36	2	36
	保健医療福祉と柔道整復の理念	柔道整復師の業務と職業倫理	講義	8	2	36					2	36
		健康の意義	講義		2	36					2	36
		柔道Ⅰ	実習		2	72					2	72
		柔道Ⅱ	実習						2	72	2	72
	社会保障制度	柔整社会学	講義	2					2	36	2	36
	小　計			50	16	324	22	396	12	252	50	972
専門分野	基礎柔道整復学	柔整外傷論基礎	講義	12	6	108					6	108
		柔整外傷保存療法	講義		2	36					2	36
		柔整人体構造機能学基礎	講義		4	72					4	72
	臨床柔道整復学	柔整後療治療論	講義	35	2	36					2	36
		上肢の損傷・治療論	講義				4	72			4	72
		下肢の損傷・治療論	講義				4	72			4	72
		軟部組織損傷・治療論	講義				2	36			2	36
		体幹の損傷・治療論	講義						2	36	2	36
		柔整応用治療論	講義						4	72	4	72
		総合柔道整復論	講義						5	90	5	90
		柔整関連医学Ⅰ	講義						6	108	6	108
		柔整関連医学Ⅱ	講義						6	108	6	108
	柔道整復実技	固定法Ⅰ	実習	17	2	72					2	72
		固定法Ⅱ	実習		2	72					2	72
		基本診察治療法	実習		2	72					2	72
		応用診察治療法	実習				4	144			4	144
		外傷予防法	実習				2	72			2	72
		柔整後療法	実習						1	36	1	36
		柔整応用治療法Ⅰ	実習						2	72	2	72
		柔整応用治療法Ⅱ	実習						2	72	2	72
	臨床実習	臨床実習Ⅰ	実習	4	1	45					1	45
		臨床実習Ⅱ	実習				1	45			1	45
		臨床実習Ⅲ	実習				1	45			1	45
		臨床実習Ⅳ	実習						1	45	1	45
	小　計			68	21	513	18	486	29	639	68	1638
合　計	合　計			132	47	987	44	942	41	891	132	2820

実務経験のある教員の授業一覧

学年	科目名	単位数	時間数	教員名
１年	運動器の機能構造Ⅰ	8	144	合田香奈
	柔道整復師の業務と職業倫理	2	36	千田由美子
	柔整外傷論基礎	6	108	安原省吾
	柔整外傷保存療法	2	36	田中秀和
	柔整人体構造機能学基礎	4	72	横井大遥
	柔整後療治療論	2	36	東佑樹
	固定法Ⅰ	2	72	大河原崇雄
	固定法Ⅱ	2	72	本田泰之/千田由美子
	基本診察治療法	2	72	安原省吾
２年	上肢の損傷・治療論	4	72	松田卓也
	下肢の損傷・治療論	4	72	田中秀和
	軟部組織損傷・治療論	2	36	東佑樹
	応用診察治療法	4	144	工藤大介/横井大遥
	外傷予防法	2	72	東佑樹/本田泰之
３年	運動器の機能構造Ⅱ	2	36	川口央修
	柔整社会学	2	36	高橋良仁
	体幹の損傷・治療論	2	36	横井大遥
	柔整応用治療論	4	72	松田卓也/田中秀和
	総合柔道整復論	5	90	田中秀和/松田卓也/高橋良仁
	柔整関連医学Ⅰ	6	108	工藤大介
	柔整関連医学Ⅱ	6	108	千田由美子/川口央修/合田香奈 横井大遥
	柔整後療法	1	36	木ノ内秀功
	柔整応用治療法Ⅰ	2	72	千田由美子
	柔整応用治療法Ⅱ	2	72	高橋良仁
合計		78	1710	

2024年度　柔道整復科

【分野】　専門基礎分野　　人体の構造と機能

【科目】　運動器の機能構造Ⅱ

【基本情報】

配当年次	3学年		担当教員	川口　央修	実務経験内容 （関連業務・所属・資格等）
単位数	2単位			かわぐち　ひろのぶ	整形外科勤務（15年） 学校法人　呉竹学園附属施術所（23年）
必修・選択	必修		時間数	36	
開講学期	前期	後期	授業形態・回数	講義	18 回

【授業情報】

授業概要	運動器の機能構造Ⅰで修得した知識をもとに、それらを臨床現場で応用できる知識に変換していく。またここで変換した知識をもとに、身体運動の力学及び、姿勢・歩行を運動学的な観点から分析し、その知識を臨床現場のどのような場面で活用できるかを考えていく。
実務経験の反映	運動器の機能構造Ⅰで得た知識を、実際の臨床現場ではどのように活かせるかを自身の臨床現場での経験をもとに伝えていく。
関連科目	１年次　：「運動器の機能構造Ⅰ」 ２年次　：「人体機能学」
授業の方法	教科書をベースに、学生が理解しやすいように配布プリントや板書を交えて展開する。
授業の一般目標 （GIO）	・運動器の機能構造Ⅰで得た知識を臨床現場で応用可能な知識に変換し定着させる。 ・身体運動の力学的観点からの分析及び、姿勢・歩行と運動器の関連を理解する。

【担当教員から】

教科書	「運動学」
参考書	「柔道整復学を学ぶための運動器基礎知識」
成績評価基準	○授業の理解度 ・基本的知識の修得 ・知識の習熟度と修得した知識の応用能力の有無 →前期中間試験、期末試験で評価する。
成績評価方法	【前期成績】：中間試験と期末試験を実施し、各試験の平均を前期最終成績とする。 【年間成績】：前期最終成績を年間成績とする。
	【評価詳細】 ○中間試験の評価割合：中間試験（100%） ○期末試験の評価割合：期末試験（100%）
担当教員から一言	運動学は人体の構造を学ぶ解剖学、機能を学ぶ生理学、体を物体として捉える力学の知識を基礎とした学問です。運動学を理解することで運動機能回復、転倒予防、介護予防などの基礎に繋がります。臨床に応用できる知識にするためにともに理解を深めていきましょう。
自主学習	予習：必要なし 復習：必須
オフィスアワー	前期：火　9：30～16：40　　２Ｆ　柔整科職員室　※授業開講時間を除く

【授業計画】

学期	回数	授業内容	到達目標(SBOs)	授業形態
前期	1	身体運動と力学	・身体運動に関する力について説明できる。 ・てこの構造とその特徴を理解し、てこの原理を人体の関節にあてはめることができる。 ・運動の法則について説明できる。	講義
	2			講義
	3	姿勢	・各関節と重心線との位置関係を理解し、抗重力筋の役割を説明できる。	講義
	4			講義
	5	歩行	・各歩行周期における関節角度と筋活動を説明できる。	講義
	6			講義
	7	反射と随意運動１	・反射について説明できる。 ・連合運動と共同運動について説明できる。 ・随意運動について説明できる。	講義
	8			講義
	9	前期中間試験		試験
	10	反射と随意運動２	・反射について説明できる。 ・連合運動と共同運動について説明できる。 ・随意運動について説明できる。	講義
	11			講義
	12	運動発達	・神経の成熟と、乳幼児の運動発達が説明できる。	講義
	13	運動学習	・運動学習の概要が説明できる。	講義
	14	運動感覚	・運動感覚と運動の制御機構について説明できる。	講義
	15	運動器の構造と機能	・骨格筋の構造と機能について説明できる。	講義
	16	四肢と体幹の運動	・体幹と脊柱の運動が説明できる。	講義
	17			講義
	18	前期期末試験		試験

2024年度　柔道整復科

【分野】　専門基礎分野　　疾病と傷害

【科目】　内科診断治療学Ⅱ

【基本情報】

配当年次	3学年		担当教員	杉山　友彦	
単位数	2単位			すぎやま　ともひこ	
必修・選択	必修		時間数	36	
開講学期	前期	後期	授業形態・回数	講義	18 回

【授業情報】

授業概要	この授業では、柔道整復術適応の可否を適切に判断するために必要となる主要な内科的疾患についての基本事項を内科診断治療学Ⅰに引き続き学ぶ。また、身体所見から患者の罹患疾患を推定するために必要となる診察のポイントを総論的観点から学習する。この科目は後期の「柔整関連医学Ⅱ②」を履修するために必要な知識となる。また並行して開講されている「柔整応用治療論」において、施術適応の可否を判断するために必要な知識となっている。
関連科目	１年次　：「人体構造機能学基礎」 ２年次　：「人体構造学」「人体機能学」「疾病の成り立ち」 ３年次　：「内科診断治療学Ⅰ」「柔整応用治療論」「柔整関連医学Ⅱ②」
授業の方法	教科書をベースに板書、パワーポイントを用いて、学生が理解しやすいように配慮し進行していく。
授業の一般目標 (GIO)	・主要な内科疾患の基本事項を理解し、医療従事者として必要な知識を修得する。 ・得た知識をもとに臨床現場で遭遇しうるあらゆる可能性を模索し状況に応じた最善の対応をすることができる能力を修得する。 ・身体所見から罹患疾患を推定することができる。 ・視診、触診、打診、聴診、検査法の手法を理解する。

【担当教員から】

教科書	「一般臨床医学」
参考書	・配布プリント
成績評価基準	○授業の理解度 ・基本的知識の修得 ・知識の習熟度と修得した知識の応用能力の有無 →前期に行う中間試験、期末試験で評価する。
成績評価方法	【前期成績】：中間試験と期末試験を実施し、各試験の平均を前期最終成績とする。 【年間成績】：前期最終成績を年間成績とする。
	【評価詳細】 ○中間試験の評価割合：中間試験（100%） ○期末試験の評価割合：期末試験（100%）
担当教員から一言	将来的に整形外科領域の医師と接する機会はあっても、あまり、内科医と接することは少ないかもしれません。柔整師としての知識のウィークポイントでもあります。医師が行う講義として臨床的な臨場感を持った現場の臭いをお伝えできれば幸いです。皆様が将来渡って行かねばならない医療という洪大な世界の道標や燈明になれれば幸いです。
自主学習	予習：必要なし 復習：必須
オフィスアワー	前期：水　11：00～15：10 後期：水　11：00～15：10　　２Ｆ　柔整科職員室　※授業開講時間を除く

【授業計画】

学期	回数	授業内容	到達目標(SBOs)	授業形態
前期	1	呼吸器疾患	・気管支喘息の概説、原因、症状、診断が説明できる。 ・COPDの概説、原因、症状、診断基準、X線所見が説明できる。 ・肺癌の概説、疫学、原因、症状が説明できる。	講義
	2			講義
	3	代謝疾患	・糖尿病の概説、原因、症状、診断、合併症が説明できる。 ・メタボリックシンドロームの概説、診断基準が説明できる。 ・痛風の概説、原因、診断が説明できる。	講義
	4			講義
	5	内分泌疾患	・巨人症、小人症、尿崩症の概説が説明できる。 ・バセドウ病、甲状腺機能低下症、クッシング症候群、アジソン病、原発性アルドステロン症、褐色細胞腫の概説、症状が説明できる。	講義
	6			講義
	7	血液・造血器疾患	・貧血の分類、概説、原因、症状が説明できる。 ・白血病の分類、概説、原因、症状が説明できる。 ・特発性血小板減少性紫斑病、血友病の概説、原因、症状が説明できる。	講義
	8			講義
	9	前期中間試験		試験
	10	腎・尿路疾患	・糸球体腎炎の概説、症状、予後が説明できる。 ・ネフローゼ症候群の概説、診断基準が説明できる。 ・腎不全の概説、症状が説明できる。 ・尿路感染症及び尿路結石の概説、症状が説明できる。	講義
	11			講義
	12	神経疾患	・脳血管障害の概説、分類、症状、合併症が説明できる。 ・髄膜炎の概説、症状が説明できる。 ・認知症、パーキンソン病の概説、症状が説明できる。 ・筋萎縮性側索硬化症、重症筋無力症、ギランバレー症候群、進行性筋ジストロフィーの概説、症状が説明できる。	講義
	13			講義
	14			講義
	15	感染症	・後天性免疫不全症候群の概説、症状が説明できる。	講義
	16	リウマチ・膠原病・アレルギー	・関節リウマチの概説、原因、症状が説明できる。 ・SLE、多発性筋炎、皮膚筋炎、強皮症、ベーチェット病の概説、原因、症状が説明できる。	講義
	17			講義
	18	前期期末試験		試験

2024年度　柔道整復科

【分野】　専門基礎分野　疾病と傷害

【科目】　外科診断治療学Ⅱ

【基本情報】

配当年次	3学年		担当教員	根本　学	
単位数	2単位			ねもと　まなぶ	
必修・選択	必修		時間数	36	
開講学期	前期	後期	授業形態・回数	講義	18 回

【授業情報】

授業概要	この授業では、柔道整復術適応の可否を適切に判断するために必要となる、移植と免疫、出血と止血、心肺蘇生法、頭部・顔面外傷、脳卒中、胸部外傷、腹部外傷といった外科領域についての基本事項を学ぶ。この科目は後期の「柔整関連医学Ⅱ」を履修するために必要な知識となる。また並行して開講されている「柔整応用治療論」において、施術適応の可否を判断するために必要な知識となっている。
実務経験の反映	臨床現場に於いて解剖学、生理学の知識を多く活用する場があった経験を踏まえ、それらの知識を使う場面やその知識の活用法を交えて伝えていく。
関連科目	１年次　：「人体構造機能学基礎」 ２年次　：「人体構造学」「人体機能学」「疾病の成り立ち」「外科診断治療学Ⅰ」 ３年次　：「柔整応用治療論」「柔整関連医学Ⅱ」
授業の方法	教科書をベースに板書を交えて、学生が理解しやすいように配慮し進行していく。毎回の授業の始めに授業の振り返りの小テストを実施し知識の定着を図る。
授業の一般目標（GIO）	・移植と免疫、出血と止血、心肺蘇生法、頭部・顔面外傷、脳卒中、胸部外傷、腹部外傷についての外科領域の基本事項を理解し説明できる。

【担当教員から】

教科書	「外科学概論」
参考書	特になし
成績評価基準	○授業の理解度 ・基本的知識の修得 ・知識の習熟度と修得した知識の応用能力の有無 →前期に行う中間試験、期末試験で評価する。
成績評価方法	【前期成績】：中間試験と期末試験を実施し、各試験の平均を前期最終成績とする。 【年間成績】：前期最終成績を年間成績とする。
	【評価詳細】 ○中間試験の評価割合：中間試験（100%） ○期末試験の評価割合：期末試験（100%）
担当教員から一言	この授業の知識は、医療従事者になるために必要な知識です。特に後半の頭部外傷や胸部外傷については、柔道整復師もスポーツ現場などでは直面しうるものです。その際に必要となる現場での判断においては、必要不可欠となる知識ですのでしっかりと修得してください。
自主学習	予習：必要なし 復習：必須
オフィスアワー	前期：木　11：00～15：00 後期：木　11：00～15：00　　２Ｆ　柔整科職員室　※授業開講時間を除く

【授業計画】

学期	回数	授業内容	到達目標(SBOs)	授業形態
前期	1	移植と免疫	・移植の種類と概要が説明できる。 ・脳死の判定基準が説明できる。 ・臓器移植の概要が説明できる。 ・移植の問題点（組織適合性抗原、拒絶反応、感染症、脳死判定）が説明できる。	講義
	2			講義
	3	出血と止血	・出血の種類（動脈性出血、静脈性出血）と概要が説明できる。 ・外出血の種類と概要が説明できる。 ・内出血の種類と概要が説明できる。 ・止血法の種類と概要が説明できる。	講義
	4			講義
	5	心肺蘇生法（応急処置）	・応急手当と救命処置の概要が説明できる。 ・救命の連鎖と住民の役割必要性が説明できる。 ・突然の心肺停止を防ぐための予防策及び注意点が説明できる。 ・救命処置の流れと手順が説明できる。 ・乳児の救命処置が説明できる。 ・傷病者の管理法が説明できる。 ・搬送法が説明できる。 ・主な病気やけがに対する応急手当の手法が説明できる。	講義
	6			講義
	7			講義
	8			講義
	9	前期中間試験		試験
	10	頭部・顔面外傷	・頭皮顔面の損傷、頭蓋冠・頭蓋底骨折の原因、症状、合併症が説明できる。 ・脳震盪、脳挫傷の概念、原因、病態生理、症状、診断、救急処置が説明できる。 ・外傷性頭蓋内血腫の概念、原因、分類、症状、診断、救急処置が説明できる。	講義
	11			講義
	12			講義
	13	脳卒中	・脳出血、脳梗塞、くも膜下出血の概念、原因、症状、救急処置が説明できる。	講義
	14			講義
	15	胸部外傷	・胸壁、気管、気管支、肺、縦隔内臓器の原因、症状、合併症、救急処置が説明できる。	講義
	16			講義
	17	腹部外傷	・腹壁、腹腔内臓器の原因、症状、合併症、救急処置が説明できる。 ・急性腹症について説明できる。	講義
	18	前期期末試験		試験

2024年度　柔道整復科

【分野】　専門基礎分野　柔道整復術の適応

【科目】　柔道整復術の適応と鑑別Ⅱ

【基本情報】					
配当年次	3学年		担当教員	樫山　政宏	
単位数	2単位			かしやま　まさひろ	
必修・選択	必修		時間数	36	
開講学期	前期	後期	授業形態・回数	講義	18 回

【授業情報】	
授業概要	上肢の損傷・治療論、下肢の損傷・治療論、応用診察治療法で学習した柔整領域の外傷や障害に対し整形外科的な観点から、その症状や所見をもとに保存療法適応の可否を判断するための知識を得る。また、観血療法を必要とする場合の主な治療法を学ぶ。この科目は「柔整関連医学Ⅱ④」を履修するために必要な知識となる。また並行して開講されている「柔整応用治療論」において、施術適応の可否を判断するために必要な知識となっている。
関連科目	１年次　：「柔整外傷論基礎」「柔整外傷保存療法」 ２年次　：「上肢の損傷・治療論」「下肢の損傷・治療論」「柔道整復術の適応と鑑別Ⅰ」「応用診察治療法」 ３年次　：「柔整応用治療論」「柔整関連医学Ⅱ④」
授業の方法	教科書をベースに板書、補助プリントを用いて、学生が理解しやすいように配慮し進行していく。
授業の一般目標 (GIO)	・整形外科的観点からみた、柔道整復術の適応の判断をするための外傷の程度や症状について理解し説明できる。 ・観血療法が適応となった場合の主な治療法を知り説明できる。

【担当教員から】	
教科書	「整形外科学」
参考書	特になし
成績評価基準	○授業の理解度 ・基本的知識の修得 ・知識の習熟度と修得した知識の応用能力の有無 →前期に行う中間試験、期末試験で評価する。
成績評価方法	【前期成績】：中間試験と期末試験を実施し、各試験の平均を前期最終成績とする。 【年間成績】：前期最終成績を年間成績とする。
	【評価詳細】 ○中間試験の評価割合：中間試験（100%） ○期末試験の評価割合：期末試験（100%）
担当教員から一言	柔道整復師は、外傷に対する施術ができますが患者さんの予後を考えた際には、初期の対応が全てとなります。正しく施術を行うためには、柔道整復師が施術所で対応可能な症状かどうかの判断に間違いは許されません。この授業では柔整理論で学んだ内容と整形外科的な観点での知識の統合を目指し、みなさんが臨床で活躍するための知識をしっかりと身に付けてください。
自主学習	予習：必要なし 復習：必須
オフィスアワー	前期：火　11：00～15：00 後期：火　11：00～15：00　　２Ｆ　柔整科職員室　※授業開講

【授業計画】

学期	回数	授業内容	到達目標(SBOs)	授業形態
前期	1	肩甲帯及び上肢の疾患	・整形外科領域における肩甲帯及び上肢の疾患の概要を理解し、その症状から柔道整復師の施術適応の可否を判断することができる。	講義
	2			講義
	3			講義
	4			講義
	5			講義
	6			講義
	7	骨盤部の疾患	・整形外科領域における骨盤部の疾患の概要を理解し、その症状から柔道整復師の施術適応の可否を判断することができる。	講義
	8			講義
	9	前期中間試験		試験
	10	下肢の疾患	・整形外科領域における下肢の疾患の概要を理解し、その症状から柔道整復師の施術適応の可否を判断することができる。	講義
	11			講義
	12			講義
	13			講義
	14	体幹の疾患	・整形外科領域における体幹部の疾患の概要を理解し、その症状から柔道整復師の施術適応の可否を判断することができる。	講義
	15			講義
	16			講義
	17			講義
	18	前期期末試験		試験

2024年度　柔道整復科

【分野】　専門基礎分野　保健医療福祉と柔道整復の理念

【科目】　柔道Ⅱ

【基本情報】					
配当年次	3学年		担当教員	鈴木　猛	
単位数	2単位			すずき　たけし	
必修・選択	必修		時間数	72	
開講学期	前期	後期	授業形態・回数	講義	36 回

【授業情報】	
授業概要	柔道Ⅰで取得した技術をより洗練し、講道館柔道初段取得に相当する柔道の技術を修得する。 柔道整復師になるにあたり、柔道整復師の歴史を学び柔道整復師と柔道の関連を知る。
実務経験の反映	臨床現場において解剖学、生理学の知識を多く活用する場があった経験を踏まえ、それらの知識を使う場面やその知識の活用法を交えて伝えていく。
関連科目	1年次　：「柔道Ⅰ」
授業の方法	各項目のポイント、注意点、意味合いを説明し、教員によるデモンストレーションを行い学生に練習させていく。受け身はマットを用いて反復練習ができる環境をつくる。 投げの形については、実演の他形のDVDを用いて理解を深められるように配慮する。 立ち技乱取りについては、受け身の修得が十分と判断できた時点で取り組むようにする。
授業の一般目標 (GIO)	・講道館柔道初段取得に相当する柔道の技術を修得する。 ・柔道の歴史及び柔道の基本事項が他者へ説明できる。

【担当教員から】	
教科書	特になし
参考書	特になし
成績評価基準	○授業の理解度と柔道技能の習熟度 ・基本的知識及び技能の修得 →前期期末試験及び認定実技試験で評価する。
成績評価方法	【前期成績】：前期期末試験を実施し、その成績を前期最終成績とする。 【後期成績】：認定実技試験の結果を100点換算し、その成績を後期最終成績とする。 【年間成績】：前期最終成績と後期最終成績の平均を年間成績とする。
	【評価詳細】 ○中間試験の評価割合：中間試験（100%） ○期末試験の評価割合：期末試験（100%）
担当教員から一言	1年次に修得した技術を確かなものとし、初段がとれるように頑張りましょう。 国家試験に向けて体力づくりも重要ですので、ケガをしないように楽しみながら鍛錬してください。
自主学習	予習：必要なし 復習：必須（適宜柔道場の施設使用願いを提出し、教員指導のもと練習すること）
オフィスアワー	前期：金　9：30～15：10 後期：金　9：30～15：10　　２Ｆ　柔整科職員室　※授業開講時間を除く

【授業計画】

学期	回数	授業内容	到達目標(SBOs)	授業形態
前期	1	柔道の基本事項	・柔道Ｉで取得した基本事項が正しく実施できる。	実技
	2			実技
	3	受け身	・後ろ受け身が正しく実施できる。 ・横受け身が正しく実施できる。 ・前受け身が正しく実施できる。 ・前廻り受け身が正しく実施できる。	実技
	4			実技
	5			実技
	6	投の形（手技）	・浮落が正しく実施できる。 ・背負投が正しく実施できる。 ・肩車が正しく実施できる	実技
	7			実技
	8			実技
	9	投の形（腰技）	・浮腰が正しく実施できる。 ・払腰が正しく実施できる。 ・釣込腰が正しく実施できる。	実技
	10			実技
	11			実技
	12	投の形（足技）	・送足払が正しく実施できる。 ・支釣込足が正しく実施できる。 ・内股が正しく実施できる。	実技
	13			実技
	14			実技
	15	立ち技乱取り（約束乱取り）	・乱取りの礼法が正しく実施できる。 ・正しく組合い所定の時間内に互に取得した技を用いて乱取りを実施できる。	実技
	16			実技
	17			実技
	18	前期期末試験		試験
後期	19	柔道の総復習	・受け身、投の形、約束乱取りを所定の時間内にスムーズに実施できる。	実技
	20			実技
	21			実技
	22			実技
	23			実技
	24			実技
	25			実技
	26			実技
	27	柔道整復師と柔道	・柔道の歴史が説明できる。（創始者、創始年、発祥の地、嘉納師範が修業した主な柔術流派と師範、柔術から柔道と発展した経緯）	講義
	28			講義
	29		・柔道の理念が説明できる。（講道館柔道目的、嘉納師範の遺訓について、精力善用・自他共栄ついて、柔道の修行の方法について）	講義
	30			講義
	31		・審判規定に準じた服装・態度が説明できる。	講義
	32			講義
	33		・礼法が説明できる。（立礼、座礼、拝礼）	講義
	34		・受け身が説明できる。（受け身の意義、受け身の種類、受け身の実施法及び注意点）	講義
	35			講義
	36	認定実技試験		試験

2024年度　柔道整復科

【分野】　専門基礎分野　　社会保障制度

【科目】　柔整社会学

【基本情報】					
配当年次	3学年		担当教員	高橋　良仁	実務経験内容 （関連業務・所属・資格等）
単位数	2単位			たかはし　よしひと	整形外科勤務(7年)・接骨院開業（4年） 学校法人　呉竹学園附属施術所(11年)
必修・選択	必修		時間数	36	
開講学期	前期	後期	授業形態・回数	講義	18 回

【授業情報】	
授業概要	現在、わが国の少子高齢化が進行する中で、国民の社会保障制度への期待は高まる一方である。本科目では、社会保障制度の概要を知ることで、柔道整復師としてどのように関わっていくかを学ぶ。
実務経験の反映	介護支援専門員、社会福祉士の資格を保有しており、デイサービスで実務経験がある。この経験を活かし、授業では業務の実際を話しながら、知識の定着を図る。
関連科目	１年次　：「職業倫理」 ３年次　：「柔整関連医学Ⅱ」
授業の方法	教科書と配布プリントをベースに板書を交えて進行していく。
授業の一般目標 (GIO)	・社会保険（医療、介護、年金、雇用、労災）を理解し説明できる。 ・社会福祉、公的扶助を理解し説明できる。

【担当教員から】	
教科書	**「社会保障制度と柔道整復師の職業倫理」**
参考書	「関係法規」
成績評価基準	○授業の理解度 ・基本的知識の修得 ・知識の習熟度と修得した知識の応用能力の有無 →後期に行う中間試験（1次卒業試験）、期末試験（2次卒業試験）で評価する。
成績評価方法	【後期成績】：中間試験と期末試験を実施し、各試験の平均を後期最終成績とする。 →中間試験は１次卒業試験、期末試験は2次卒業試験内の柔整関連医学Ⅱ及び柔整社会学に該当する問題の得点の合計を100点換算し、その得点を柔整社会学の成績とする。 【年間成績】：後期最終成績を年間成績とする。
	【評価詳細】 ○中間試験の評価割合：中間試験（100%） →1次卒業試験の午前問題1～5・38～50・107～128、午後問題1～67の計107問の得点を100点換算 ○期末試験の評価割合：期末試験（100%） →2次卒業試験の午前問題1～5・38～50・107～128、午後問題1～67の計107問の得点を100点換算
担当教員から一言	本科目では社会保障の成立から現在の形になった経緯と、各種法律・制度について学ぶことで、これからの柔道整復師が、どうあるべきか、また、日々どのように実践いくかについて、自身が考えていくきっかけを持てれば意義があるといえます。
自主学習	予習：必要なし 復習：必須
オフィスアワー	前期：月　9：00～16：40 後期：月　9：00～16：40　　２Ｆ　柔整科職員室　※授業開講時間を除く

【授業計画】

学期	回数	授業内容	到達目標(SBOs)	授業形態
前期	1	社会保障の歴史	・社会保障の歴史を捉え現状を理解・説明できる。	講義
	2	社会保障制度	・社会保障制度の概要を理解し説明できる。	講義
	3	社会保険（医療１）	・健康保険法、国民健康保険法、高齢者医療保険法について理解し説明できる。	講義
	4	社会保険（医療２）（保険医療サービス）	・医療保険制度・診療報酬・保険サービスにおける専門職の役割と関係者との連携を理解し説明する。	講義
	5	社会保険（介護１）	・介護保険について理解し説明できる。	講義
	6	社会保険（介護２）	・地域包括ケアシステム等を理解し説明できる。	講義
	7	社会保険（年金・雇用・労災１）	・年金保険法、雇用保険法、労働災害保険について理解し説明できる。	講義
	8	社会保険（年金・雇用・労災２）		講義
	9	後期中間試験		試験
	10	社会福祉	・福祉六法について理解し説明できる。	講義
	11	公的扶助（主に生活保護）	・生活困窮者に対する生活保護制度並びに低所得者を対象とした関係法規を理解し説明できる。	講義
	12	国民医療費の定義と現状	・国民医療費の定義と現状について理解し説明できる。	講義
	13	診療報酬制度	・診療報酬制度について理解し説明できる。	講義
	14	柔道整復療養費の推移と算定	・柔道整復療養費の推移と算定について理解し説明できる。	講義
	15	柔道整復療養費支給申請書及び施術録	・柔道整復療養費支給申請書及び施術録について理解し説明できる。	講義
	16	柔道整復関係法規	・柔道整復師法とその他の医療系職種の法律の差異を理解し説明できる。	講義
	17			講義
	18	後期期末試験		試験

2024年度　柔道整復科

【分野】　専門分野　臨床柔道整復学

【科目】　体幹の損傷・治療論

【基本情報】

配当年次	3学年		担当教員	横井　大遥	実務経験内容 （関連業務・所属・資格等）
単位数	2単位			よこい　とものり	接骨院勤務(5年) 学校法人　呉竹学園附属施術所(3年)
必修・選択	必修		時間数	36	
開講学期	前期	後期	授業形態・回数	講義	18 回

【授業情報】

授業概要	この授業では頭部、頸部、胸郭、脊柱の骨折及び脱臼と軟部組織損傷の特徴について学習する。この科目は並行して開講されている柔整応用治療論で損傷判定を行うための理解を深め、外科診断治療学Ⅱの頭部外傷と知識をリンクさせるために必要な科目となっている。
実務経験の反映	臨床経験の中での自身の経験を随時取り入れながら進めていく。 特にスタンダードである教科書に対して臨床の実際を学生に伝えていく。
関連科目	１年次　：「柔整外傷論基礎」 ３年次　：「柔整応用治療論」「外科診断治療学Ⅱ」
授業の方法	教科書及び配布プリントをベースとし、板書を交えて展開する。
授業の一般目標 (GIO)	・頭部、頸部、胸郭、脊柱の骨折及び脱臼と軟部組織損傷の特徴について理解し説明できる。

【担当教員から】

教科書	「柔道整復学・理論編」
参考書	・配布プリント
成績評価基準	○授業の理解度 ・基本的知識の修得 ・知識の習熟度と修得した知識の応用能力の有無 →前期に行う各中間試験、期末試験で評価する。
成績評価方法	【評価方法】 ○前期成績：中間試験と期末試験を実施し、各試験の平均を前期最終成績とする。 ○年間成績：前期最終成を年間成績とする。
	【評価詳細】 ○中間試験の評価割合：中間試験（100%） ○期末試験の評価割合：期末試験（100%）
担当教員から一言	外傷を見極め施術し、治癒に導くことが柔道整復師の使命です。その中でも体幹に発生する外傷は患者の生命の危機に関わったり重大な機能障害を後遺する可能性を秘めています。そこで体幹における外傷の特徴をしっかり理解しましょう。わからない事があればどんどん質問してください。しっかりと復習をして知識を定着させましょう。
自主学習	予習：必要なし 復習：必須
オフィスアワー	前期：火～土　9：00～17：45 後期：火～土　9：00～17：45　　２Ｆ　柔整科職員室　※授業開講時間を除く

【授業計画】

学期	回数	授業内容	到達目標(SBOs)	授業形態
前期	1	肋骨骨折・胸骨骨折	・肋骨骨折の発生機序、症状、合併症、施術法が説明できる。 ・胸骨骨折の発生機序、症状、合併症を説明できる。	講義
	2			講義
	3			講義
	4	脊椎の骨折・脱臼	・主な脊椎骨折と脱臼の発生機序、症状、合併症が説明できる。	講義
	5			講義
	6	頭部・顔面部の骨折	・頭部骨折の症状を説明できる。 ・主な顔面骨骨折の特徴と症状が説明できる。	講義
	7			講義
	8			講義
	9	前期中間試験		試験
	10	顎関節脱臼・顎関節症	・顎関節脱臼の発生機序、症状、施術法が説明できる。 ・顎関節症の分類と各型の特徴が説明できる。	講義
	11			講義
	12			講義
	13	頸部軟部組織損傷	・寝違え、むち打ち損傷の分類と症状を説明できる。 ・外傷性腕神経叢損傷の損傷レベルによる症状の違いを説明できる。 ・鑑別すべき疾患（斜頸・頚椎症・後縦靭帯骨化症・副神経麻痺及び長胸神経麻痺）の症状を説明できる。	講義
	14			講義
	15	胸・背部軟部組織損傷	・肋間筋損傷の症状を説明できる。	講義
	16	腰部軟部組織損傷	・腰椎分離症、分離すべり症の特徴を理解し、所見・症状を説明できる。	講義
	17			講義
	18	前期期末試験		試験

2024年度　柔道整復科

【分野】　専門分野　臨床柔道整復学

【科目】　柔整応用治療論

【基本情報】

配当年次	3学年		担当教員	松田　卓也	実務経験内容 （関連業務・所属・資格等）
単位数	2単位			まつだ　たくや	接骨院勤務（７年）、整形外科勤務（1年） 接骨院開業（15年）
必修・選択	必修		時間数	36	
開講学期	前期	後期	授業形態・回数	講義	18 回

【授業情報】

授業概要	この授業では、上肢帯～手指までの脱臼について学習する。前半は発生機序と症状を理解することに重点を置き、合わせて合併症を学んでいく。後半は、臨床で診る可能性の高い脱臼を中心にその施術方法を学ぶ。この科目は並行して開講される、柔整応用治療法Ⅰ、柔整応用治療法Ⅱを履修するうえで必要とする知識を修得する科目となっている。
実務経験の反映	19年間の臨床経験の中での自身の経験を随時取り入れながら進めていく。特にスタンダードである教科書に対して臨床の実際を学生に伝えていく。
関連科目	１年次：「柔整外傷論基礎」「柔整外傷保存療法」「柔整後療治療論」 ２年次：「上肢の損傷・治療論」「応用診察治療法①」 ３年次：「柔整応用治療法Ⅰ」「柔整応用治療法Ⅱ」
授業の方法	教科書及び配付プリントをベースとし、板書を交えて展開する。必要に応じ動画のスライドを用いて理解が深まるように進めていく。
授業の一般目標 (GIO)	・上肢帯～手指までの脱臼の発生機転、症状、合併症及び施術の概要が説明できる。

【担当教員から】

教科書	「柔道整復学・理論編」「柔道整復学・実技編」
参考書	特になし
成績評価基準	○授業の理解度 ・基本的知識の修得 ・知識の習熟度と修得した知識の応用能力の有無 →前期に行う各中間試験、期末試験で評価する。
成績評価方法	【評価方法】<u>柔整応用治療論①、②の総合評価を柔整応用治療論の評価とする。</u> ○前期成績：中間試験と期末試験を実施し、各試験の平均を前期最終成績とする。 ※中間試験・期末試験では柔整応用治療論①（100点満点）・柔整応用治療論②（100点満点）の試験を実施しその平均点を柔整応用治療論の成績とする。 ○年間成績：前期最終成績を年間成績とする。
	【評価詳細】 ○中間試験の評価割合：中間試験（100%） ○期末試験の評価割合：期末試験（100%） ※柔整応用治療論②と合算して平均したものを評価とする。
担当教員から一言	臨床の場まであと一歩です、ここまで習得した知識をしっかりと整理して確実に自分のものにしましょう。
自主学習	予習：必要なし 復習：必須
オフィスアワー	前期：木　9：00～16:40 後期：木　9：00～16:40　　２Ｆ　柔整科職員室　※授業開講時間を除く

【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標(SBOs)	授業形態
前期	1	上肢帯の脱臼	・胸鎖関節脱臼の分類、発生機序、症状、予後が説明できる。	講義
	2		・肩鎖関節脱臼の分類、発生機序、症状、予後が説明できる。	講義
	3	肩関節脱臼	・肩関節脱臼の概要、分類が説明できる。 ・肩関節前方脱臼の発生機序、症状、合併症が説明できる。	講義
	4		・肩関節前方脱臼の鑑別診断が説明できる。 ・肩関節後方脱臼、下方脱臼、上方脱臼の概要が説明できる。	講義
	5	肘関節脱臼・肘内障	・肘関節脱臼の概要、分類が説明できる。 ・前腕両骨後方脱臼の発生機序、症状が説明できる。	講義
	6		・その他の前腕骨脱臼の概要、発生機序、症状が説明できる。 ・肘内障の概要、発生機序、症状、鑑別診断の説明ができる。	講義
	7	手関節部・手根骨の脱臼	・遠位橈尺関節脱臼の分類、発生機序、症状が説明できる。 ・橈骨手根関節脱臼の発生機序、症状が説明できる。	講義
	8		・月状骨及び月状骨周囲脱臼の概要、発生機序、症状、合併症が説明できる。	講義
	9	前期中間試験		試験
	10	手指の脱臼	・CM関節脱臼の概要、発生機序、症状が説明できる。 ・第１MP関節脱臼の分類、発生機序、症状が説明できる。	講義
	11		・その他MP関節脱臼の概要、発生機序、症状が説明できる。 ・PIP関節、DIP関節の分類、発生機序、症状が説明できる。	講義
	12	肩関節脱臼の施術	・肩関節脱臼の整復法、固定法、後療法の説明ができる。	講義
	13			講義
	14	肘関節脱臼・肘内障の施術	・肘関節脱臼、肘内障の整復法、固定法、後療法の説明ができる。	講義
	15			講義
	16	手指の脱臼の施術	・主な手指脱臼の施術が説明できる。	講義
	17			講義
	18	前期期末試験		試験

2024年度　柔道整復科

【分野】　専門分野　臨床柔道整復学

【科目】　柔整応用治療論

【基本情報】					
配当年次	3学年		担当教員	田中　秀和	実務経験内容 （関連業務・所属・資格等）
単位数	2単位			たなか　ひでかず	整形外科勤務(4年)、接骨院勤務(2年) 学校法人　呉竹学園附属施術所(20年)
必修・選択	必修		時間数	36	
開講学期	前期	後期	授業形態・回数	講義	18 回

【授業情報】	
授業概要	柔整応用治療論は、2年次までに学習した科目で得た知識をもとに、提示された症状及び画像所見から、問診、視診、触診、各種検査法を用いて患部の状態を正しく判定し、柔道整復術適応の可否を判断するための知識を修得する科目である。 上肢及び下肢の柔道整復術の適応可否についての理解をより深めるため、①上肢、②下肢にパートを分け授業を進行していく。柔整応用治療論②では下肢の適応可否について取り扱う。
実務経験の反映	整形外科と接骨院での勤務経験を活かして、授業内容で学ぶことと臨床との違いを適宜説明し、より深い知識として定着できるようにしていく。
関連科目	１年次：「柔整外傷論基礎」「柔整外傷保存療法」「柔整後療治療論」「固定法Ⅰ」「固定法Ⅱ」 「基本診察治療法」 ２年次：「上肢の損傷・治療論」「応用診察治療法②」「外傷予防法」「柔道整復術の適応と鑑別Ⅰ」 ３年次：「柔整応用治療法Ⅱ」「柔道整復術の適応と鑑別Ⅱ」
授業の方法	教科書及び配付プリントをベースとし、板書を交えて展開する。グループワークによる学習も取り入れ授業を進めていく。
授業の一般目標 (GIO)	・提示された下肢の症状及び画像所見から、問診、視診、触診、各種検査法を用いて患部の状態を正しく判定し、 柔道整復術適応の可否を判断することができる。

【担当教員から】	
教科書	「柔道整復学・理論編」
参考書	特になし
成績評価基準	○授業の理解度 ・基本的知識の修得 ・知識の習熟度と修得した知識の応用能力の有無 →前期に行う各中間試験、期末試験で評価する。
成績評価方法	【評価方法】<u>柔整応用治療論①、②の総合評価を柔整応用治療論の評価とする。</u> ○前期成績：中間試験と期末試験を実施し、各試験の平均を前期最終成績とする。 ※中間試験・期末試験では柔整応用治療論①（100点満点）・柔整応用治療論②（100点満点）の試験を実施し その平均点を柔整応用治療論の成績とする。 ○年間成績：前期最終成績を年間成績とする。
	【評価詳細】 ○中間試験の評価割合：中間試験（100%） ○期末試験の評価割合：期末試験（100%） ※柔整応用治療論①と合算して平均したものを評価とする。
担当教員から一言	1・2年で学習した内容を関連付けることを目標としています。特に復習は必ずしてください。
自主学習	予習：必要なし 復習：必須
オフィスアワー	前期：火～土　9：00～17：45 後期：月～金　9：00～17：45　　２Ｆ　柔整科職員室　※授業開講時間を除く

【授業計画】

学期	回数	授業内容	到達目標(SBOs)	授業形態
前期	1	骨盤部～股関節部の診察法	・提示された骨盤部～股関節部の症状及び画像所見から、問診、視診、触診、各種検査法を用いて患部の状態を正しく判定し、柔道整復術適応の可否が判断できる。	講義
	2			講義
	3			講義
	4	大腿部の診察法	・提示された大腿部の症状及び画像所見から、問診、視診、触診、各種検査法を用いて患部の状態を正しく判定し、柔道整復術適応の可否が判断できる。	講義
	5			講義
	6	膝関節部の診察法	・提示された膝関節部の症状及び画像所見から、問診、視診、触診、各種検査法を用いて患部の状態を正しく判定し、柔道整復術適応の可否が判断できる。	講義
	7			講義
	8			講義
	9	前期中間試験		試験
	10			講義
	11			講義
	12			講義
	13	下腿部の診察法	・提示された下腿部の症状及び画像所見から、問診、視診、触診、各種検査法を用いて患部の状態を正しく判定し、柔道整復術適応の可否が判断できる。	講義
	14			講義
	15	足部～足指部の診察法	・提示された足部～足指部の症状及び画像所見から、問診、視診、触診、各種検査法を用いて患部の状態を正しく判定し、柔道整復術適応の可否が判断できる。	講義
	16			講義
	17			講義
	18	前期期末試験		試験

2024年度　柔道整復科

【分野】　専門分野　　臨床柔道整復学

【科目】　総合柔道整復論

【基本情報】					
配当年次	3学年		担当教員	田中　秀和	実務経験内容 （関連業務・所属・資格等）
単位数	1単位			たなか　ひでかず	整形外科勤務(4年)、接骨院勤務(2年) 学校法人　呉竹学園附属施術所(20年)
必修・選択	必修		時間数	18	
開講学期	前期	後期	授業形態・回数	講義	9 回

【授業情報】	
授業概要	この授業では、柔整外傷論基礎、柔整外傷保存療法で修得した知識を振り返り、そこで得た知識を臨床で応用可能な知識へ統合し定着させる。
実務経験の反映	整形外科と接骨院での勤務経験を活かして、授業内容で学ぶことと臨床との違いを適宜説明し、より深い知識として定着できるようにしていく。
関連科目	1年次：「総合柔道整復論」
授業の方法	教科書と配布プリントをベースに1年次の学習内容を振り返りながら、適宜確認問題を実施し知識の定着を図る。
授業の一般目標 (GIO)	・柔整外傷論基礎、柔整外傷保存療法で修得した知識を、卒業後の臨床現場で応用できる知識に変換し説明できる。

【担当教員から】	
教科書	「柔道整復学・理論編」
参考書	特になし
成績評価基準	○授業の理解度 ・基本的知識の修得 ・知識の習熟度と修得した知識の応用能力の有無 →後期に行う中間試験（1次卒業試験）で評価する。
成績評価方法	【後期成績】：中間試験を実施しその評価を後期最終成績とする。 【年間成績】：後期最終成績を年間成績とする。
	【評価詳細】 ○中間試験の評価割合：中間試験（100%） →1次卒業試験の午前問題6～37、午後問題68～122の計87問の得点を100点換算
担当教員から一言	国試対策授業です。必修・一般問題ともに出題頻度の高い単元になります。 予習・復習含めてしっかりと取り組んでください。
自主学習	予習：必要なし 復習：必須
オフィスアワー	前期：火～土　9：00～17：45 後期：月～金　9：00～17：45　　２Ｆ　柔整科職員室　※授業開講時間を除く

【授業計画】

学期	回数	授業内容	到達目標(SBOs)	授業形態
後期	1	骨折・脱臼の分類	・骨折、脱臼の分類が説明できる。	講義
	2	骨折・脱臼の症状	・骨折、脱臼の症状が説明できる。	講義
	3			講義
	4	骨折・脱臼の合併症	・骨折、脱臼の合併症が説明できる。	講義
	5			講義
	6	小児骨折・高齢者骨折	・小児骨折、高齢者骨折の特徴が説明できる。	講義
	7	骨折・脱臼の整復障害	・骨折、脱臼の整復障害が説明できる。	講義
	8	主要な外傷の整復法・固定法	・主要な外傷の整復法と固定法が説明できる。	講義
	9	後期中間試験		試験

2024年度　柔道整復科

【分野】　専門分野　臨床柔道整復学

【科目】　総合柔道整復論

【基本情報】					
配当年次	3学年		担当教員	松田　卓也	実務経験内容 （関連業務・所属・資格等）
単位数	2単位			まつだ　たくや	接骨院勤務（７年）、整形外科勤務（1年） 接骨院開業（15年）
必修・選択	必修		時間数	36	
開講学期	前期	後期	授業形態・回数	講義	18 回

【授業情報】	
授業概要	この授業では、上肢の損傷・治療論、応用診察治療法、柔整応用治療論で修得した知識を振り返り、そこで得た知識を臨床で応用可能な知識へ統合し定着させる。
実務経験の反映	臨床経験の中での自身の経験を随時取り入れながら進めていく。特にスタンダードである教科書に対して臨床の実際を学生に伝えていく。
関連科目	２年次：「上肢の損傷・治療論」「応用診察治療法」 ３年次：「柔整応用治療論」
授業の方法	教科書と配布プリントをベースに2年次及び3年前期の学習内容を振り返りながら、適宜確認問題を実施し知識の定着を図る。
授業の一般目標 （GIO）	・上肢の損傷・治療論、応用診察法、柔整応用治療論で修得した知識を、卒業後の臨床現場で応用できる知識に変換し説明できる。

【担当教員から】	
教科書	「柔道整復学・理論編」
参考書	特になし
成績評価基準	○授業の理解度 ・基本的知識の修得 ・知識の習熟度と修得した知識の応用能力の有無 →後期に行う中間試験（1次卒業試験）、期末試験（2次卒業試験）で評価する。
成績評価方法	【後期成績】：中間試験と期末試験を実施し、各試験の平均を後期最終成績とする。 →中間試験は１次卒業試験、期末試験は2次卒業試験内の総合柔道整復論①～③に該当する問題の得点の合計を100点換算し、その得点を総合柔道整復論の成績とする。 【年間成績】：後期最終成績を年間成績とする。
	【評価詳細】 ○中間試験の評価割合：中間試験（100%） →1次卒業試験の午前問題6～37、午後問題68～122の計87問の得点を100点換算 ○期末試験の評価割合：期末試験（100%） →2次卒業試験の午前問題6～37、午後問題68～122の計87問の得点を100点換算
担当教員から一言	ここまでに修得した知識がしっかりと臨床で活かせる知識となるように頑張って学習しましょう。
自主学習	予習：必要なし 復習：必須
オフィスアワー	前期：木　9：30～16：40 後期：木　9：30～16：40　２Ｆ　柔整科職員室　※授業開講時間を除く

【授業計画】

学期	回数	授業内容	到達目標(SBOs)	授業形態
後期	1	上肢の骨折	・主な上肢の骨折の発生機序、症状、合併症、施術法が説明できる。	講義
	2			講義
	3			講義
	4			講義
	5			講義
	6			講義
	7	上肢の脱臼	・主な上肢の脱臼の発生機序、症状、合併症、施術法が説明できる。	講義
	8			講義
	9	後期中間試験		試験
	10			講義
	11			講義
	12			講義
	13	上肢の軟部組織損傷	・主な上肢の軟部組織損傷の発生機序、症状、合併症、施術法が説明できる。	講義
	14			講義
	15			講義
	16			講義
	17			講義
	18	後期期末試験		試験

2024年度　柔道整復科

【分野】　専門分野　臨床柔道整復学

【科目】　総合柔道整復論

【基本情報】

配当年次	3学年		担当教員	高橋　良仁	実務経験内容 （関連業務・所属・資格等）
単位数	2単位			たかはし　よしひと	整形外科勤務(7年)・接骨院開業（4年） 学校法人　呉竹学園附属施術所(11年)
必修・選択	必修		時間数	36	
開講学期	前期	後期	授業形態・回数	講義	18 回

【授業情報】

授業概要	この授業では、下肢の損傷・治療論、応用診察法治療法、体幹の損傷・治療論、柔整応用治療論で修得した知識を振り返り、そこで得た知識を臨床で応用可能な知識へ統合し定着させる。
実務経験の反映	18年間の臨床経験の中での自身の経験を随時取り入れながら進めていく。特にスタンダードである教科書に対して臨床の実際を学生に伝えていく。
関連科目	２年次：「下肢の損傷・治療論」「応用診察法」 ３年次：「体幹の損傷・治療論」「柔整応用治療論」
授業の方法	教科書と配布プリントをベースに2年次及び3年前期の学習内容を振り返りながら、適宜確認問題を実施し知識の定着を図る。
授業の一般目標 (GIO)	・下肢の損傷・治療論、応用診察法、体幹の損傷・治療論、柔整応用治療論で修得した知識を、卒業後の臨床現場で応用できる知識に変換し説明できる。

【担当教員から】

教科書	「柔道整復学・理論編」
参考書	特になし
成績評価基準	○授業の理解度 ・基本的知識の修得 ・知識の習熟度と修得した知識の応用能力の有無 →後期に行う中間試験（1次卒業試験）、期末試験（2次卒業試験）で評価する。
成績評価方法	【後期成績】：中間試験と期末試験を実施し、各試験の平均を後期最終成績とする。 →中間試験は１次卒業試験、期末試験は2次卒業試験内の総合柔道整復論①～③に該当する問題の得点の合計を100点換算し、その得点を総合柔道整復論の成績とする。 【年間成績】：後期最終成績を年間成績とする。
	【評価詳細】 ○中間試験の評価割合：中間試験（100%） →1次卒業試験の午前問題6～37、午後問題68～122の計87問の得点を100点換算 ○期末試験の評価割合：期末試験（100%） →2次卒業試験の午前問題6～37、午後問題68～122の計87問の得点を100点換算
担当教員から一言	柔道整復師として症状を訴えている人や各種疾患に対して、基本となる人体の構造・機能、診察法や治療法についての知識が必要です。今まで学習した内容を柔軟に応用できる柔道整復師になるように授業展開していきます。 また国家試験対策としても行います。
自主学習	予習：必要なし 復習：必須
オフィスアワー	前期：月　9：00～16：40 後期：月　9：00～16：40　　２Ｆ　柔整科職員室　※授業開講時間を除く

【授業計画】

学期	回数	授業内容	到達目標(SBOs)	授業形態
後期	1	下肢の骨折	・主な下肢の骨折の発生機序、症状、合併症、施術法が説明できる。	講義
	2			講義
	3			講義
	4	下肢の脱臼	・主な下肢の脱臼の発生機序、症状、合併症、施術法が説明できる。	講義
	5			講義
	6	下肢の軟部組織損傷	・主な下肢の軟部組織損傷の発生機序、症状、合併症、施術法が説明できる。	講義
	7			講義
	8			講義
	9	後期中間試験		試験
	10	体幹の骨折・脱臼	・主な体幹の骨折及び脱臼の発生機序、症状、合併症、施術法が説明できる。	講義
	11			講義
	12			講義
	13			講義
	14	体幹の軟部組織損傷	・主な体幹の軟部組織損傷の発生機序、症状、合併症、施術法が説明できる。	講義
	15			講義
	16			講義
	17			講義
	18	後期期末試験		試験

2024年度　柔道整復科

【分野】　専門分野　臨床柔道整復学

【科目】　柔整関連医学Ⅰ

【基本情報】					
配当年次	3学年		担当教員	工藤　大介	実務経験内容 （関連業務・所属・資格等）
単位数	6単位			くどう　だいすけ	接骨院勤務(3年) 学校法人　呉竹学園附属施術所(15年)
必修・選択	必修		時間数	108	
開講学期	前期	後期	授業形態・回数	講義	54 回

【授業情報】	
授業概要	柔整人体構造機能学基礎、人体構造学、人体機能学、高齢者・競技者の生理学的変化と特徴Ⅰ、高齢者・競技者の生理学的変化と特徴Ⅱの学習内容を振り返り、各科目における重要事項を柔道整復師の業務と結び付け、臨床現場のどのような場面でその知識を必要とするかを考える。
実務経験の反映	臨床現場に於いて解剖学、生理学の知識を多く活用する場があった経験を踏まえ、それらの知識を使う場面やその知識の活用法を交えて伝えていく。
関連科目	１年次　：「柔整人体構造機能学基礎」「高齢者・競技者の生理学的変化と特徴Ⅰ」 ２年次　：「人体構造学」「人体機能学」「高齢者・競技者の生理学的変化と特徴Ⅱ」
授業の方法	実施項目の内容の講義及び確認テストを反復し確実な知識の定着を図る。
授業の一般目標 (GIO)	・身体の構成単位である、細胞、組織、器官、器官系について理解し説明できる。 ・各器官系に属する個々の器官の構造と機能に関して説明できる。
【担当教員から】	
教科書	「解剖学」「生理学」
参考書	特になし
成績評価基準	○授業の理解度 ・基本的知識の修得 ・知識の習熟度と修得した知識の応用能力の有無 →前期・後期に行う各中間試験、期末試験で評価する。
成績評価方法	【前期成績】：中間試験と期末試験を実施し、各試験の平均を後期最終成績とする。 【後期成績】：中間試験と期末試験を実施し、各試験の平均を後期最終成績とする。 →中間試験は１次卒業試験、期末試験は2次卒業試験内の柔整関連医学Ⅰに該当する問題の得点の合計を100点換算し、その得点を柔整関連医学Ⅰの成績とする。 【年間成績】：前期最終成績と後期最終成績を年間成績とする。 【評価詳細】 ○中間試験の評価割合：中間試験（100%） ※後期中間試験は1次卒業試験の午前問題51～106の計56問の得点を100点換算 ○期末試験の評価割合：期末試験（100%） ※後期期末試験は2次卒業試験の午前問題51～106の計56問の得点を100点換算
担当教員から一言	この科目は、国家試験でも出題数の多い解剖学と生理学に直結する科目でもあります。臨床で使える知識としての定着はもちろんですが、国家試験の対策として確実な得点力を目指せるように頑張りましょう。
自主学習	予習：次回の実施項目に該当する国家試験問題を解き、自身での当該項目の理解度を確認しておく。 復習：実施項目で自身の理解が足りていない部分をノートにまとめておく。
オフィスアワー	前期：火～土　9：00～17：45 後期：火～土　9：00～17：45　　２Ｆ　柔整科職員室　※授業開講時間を除く

【授業計画】

学期	回数	授業内容	到達目標(SBOs)	授業形態
前期	1	脈管系	・人体の構造 及び人体の機能に関する知識を柔道整復の臨床で応用可能な知識に変換し説明できる。	講義
	2			講義
	3	消化器		講義
	4			講義
	5	呼吸器		講義
	6			講義
	7	泌尿器		講義
	8			講義
	9	前期中間試験		試験
	10	中枢神経	・人体の構造 及び人体の機能に関する知識を柔道整復の臨床で応用可能な知識に変換し説明できる。	講義
	11			講義
	12	末梢神経		講義
	13			講義
	14	感覚器		講義
	15			講義
	16	生殖器		講義
	17			講義
	18	前期期末試験		試験
後期	19	内分泌の構造と機能	・人体の構造 及び人体の機能に関する知識を柔道整復の臨床で応用可能な知識に変換し説明できる。	講義
	20			講義
	21	生　殖		講義
	22			講義
	23	解剖学概説		講義
	24			講義
	25	生理学の基礎		講義
	26			講義
	27	血液の生理		講義
	28			講義
	29	循環の生理		講義
	30			講義
	31	呼吸の生理		講義
	32			講義
	33	消化と吸収		講義
	34			講義
	35	栄養と代謝		講義
	36	後期中間試験		試験
後期	37	体温とその調節	・人体の構造 及び人体の機能に関する知識を柔道整復の臨床で応用可能な知識に変換し説明できる。	講義
	38			講義
	39	骨の生理学		講義
	40			講義
	41	体液の生理学		講義
	42			講義
	43	神経の基本的機能		講義
	44			講義
	45	神経の機能		講義
	46			講義
	47	筋肉の機能		講義
	48			講義
	49	感覚の生理学		講義
	50			講義
	51	知識の統合		講義
	52			講義
	53			講義
	54	後期期末試験		試験

2024年度　柔道整復科

【分野】　専門分野　臨床柔道整復学

【科目】　柔整関連医学Ⅱ

【基本情報】					
配当年次	3学年		担当教員	川口　央修	実務経験内容 （関連業務・所属・資格等）
単位数	2単位			かわぐち　ひろのぶ	整形外科勤務(15年) 学校法人　呉竹学園附属施術所(23年)
必修・選択	必修		時間数	36	
開講学期	前期	後期	授業形態・回数	講義	18 回

【授業情報】	
授業概要	内科診断治療学Ⅰ、内科診断治療学Ⅱで学習した各科目における重要事項を柔道整復師の業務と結び付け、臨床現場のどのような場面でその知識を必要とするかを考える。
実務経験の反映	整形外科で勤務していた当時より、特に高齢者には内科的な基礎疾患を疑う患者さんが多く、その対応が幾度となくあった。この授業ではその経験を活かし、柔道整復師の業務内として内科的疾患の知識の必要性を伝える。
関連科目	２年次：「内科診断治療学Ⅰ」 ３年次：「内科診断治療学Ⅱ」
授業の方法	・実施項目の内容の講義及び確認テストを反復し確実な知識の定着を図る。
授業の一般目標 (GIO)	・内科診断治療学Ⅰ、内科診断治療学Ⅱで修得した知識を、卒業後の臨床現場で応用できる知識に変換し説明できる。

【担当教員から】	
教科書	「一般臨床医学」
参考書	特になし
成績評価基準	○授業の理解度 ・基本的知識の修得 ・知識の習熟度と修得した知識の応用能力の有無 →後期に行う中間試験（1次卒業試験）、期末試験（2次卒業試験）で評価する。
成績評価方法	【後期成績】：中間試験と期末試験を実施し、各試験の平均を後期最終成績とする。 →中間試験は１次卒業試験、期末試験は2次卒業試験内の柔整関連医学Ⅱ及び柔整社会学に該当する問題の得点の合計を100点換算し、その得点を柔整関連医学Ⅱの成績とする。 【年間成績】：後期最終成績を年間成績とする。
	【評価詳細】 ○中間試験の評価割合：中間試験（100%） →1次卒業試験の午前問題1～5・38～50・107～128、午後問題1～67の計107問の得点を100点換算 ○期末試験の評価割合：期末試験（100%） →2次卒業試験の午前問題1～5・38～50・107～128、午後問題1～67の計107問の得点を100点換算
担当教員から一言	この授業では内科診断治療学Ⅰ・Ⅱで得た知識を再度整理するとともに病態・疫学・症状等、疾患に対する理解を深めるための授業を提供します。ともに頑張りましょう。
自主学習	予習：次回の実施項目を内科診断治療学Ⅰ・Ⅱのノートを見直しし、理解が足りていない部分をまとめておく。 復習：実施項目に該当する国家試験問題を解き、自身での当該項目の理解度を再確認しておく。
オフィスアワー	後期：火～土　11：10～15：00　　２Ｆ　柔整科職員室　※授業開講時間を除く

【授業計画】

学期	回数	授業内容	到達目標(SBOs)	授業形態
後期	1	呼吸器疾患	・内科診断治療学Ⅰ、内科診断治療学Ⅱに関する知識を柔道整復の臨床で応用可能な知識に変換し説明できる。	講義
	2	循環器疾患		講義
	3	消化器疾患①		講義
	4	消化器疾患②		講義
	5	泌尿器疾患		講義
	6	血液疾患		講義
	7	内分泌疾患①		講義
	8	内分泌疾患②		講義
	9	後期中間試験		試験
	10	代謝性疾患、糖尿病	・内科診断治療学Ⅰ、内科診断治療学Ⅱに関する知識を柔道整復の臨床で応用可能な知識に変換し説明できる。	講義
	11	神経・筋疾患①		講義
	12	神経・筋疾患②		講義
	13	感染症		講義
	14	膠原病		講義
	15	診察各論①		講義
	16	診察各論②		講義
	17	診察各論③		講義
	18	後期期末試験		試験

2024年度　柔道整復科

【分野】　専門分野　臨床柔道整復学

【科目】　柔整関連医学Ⅱ

【基本情報】					
配当年次	3学年		担当教員	合田　香奈	実務経験内容 （関連業務・所属・資格等）
単位数	2単位			ごうだ　かな	接骨院勤務(5年)　開業年数(8年) 学校法人　呉竹学園附属施術所(3年)
必修・選択	必修		時間数	36	
開講学期	前期	後期	授業形態・回数	講義	18 回

【授業情報】	
授業概要	疾病と傷害、健康の意義、外科診断治療学Ⅰ、外科診断治療学Ⅱで学習した各科目における重要事項を柔道整復師の業務と結び付け、臨床現場のどのような場面でその知識を必要とするかを考える。
実務経験の反映	自身の施術所勤務の経験の中で、柔道整復の業務に外科及び病理学的な観点で必要となる知識を回想し、学生に伝えていく。
関連科目	２年次：「疾病の成り立ち」「外科診断治療学Ⅰ」 ３年次：「外科診断治療学Ⅱ」
授業の方法	実施項目の内容の講義及び確認テストを反復し確実な知識の定着を図る。
授業の一般目標 (GIO)	・疾病の成り立ち、外科診断治療学Ⅰ、外科診断治療学Ⅱで修得した知識を、卒業後の臨床現場で応用できる知識に変換し説明できる。

【担当教員から】	
教科書	「病理学概論」「外科学概論」
参考書	特になし
成績評価基準	○授業の理解度 ・基本的知識の修得 ・知識の習熟度と修得した知識の応用能力の有無 →後期に行う中間試験（1次卒業試験）、期末試験（2次卒業試験）で評価する。
成績評価方法	【後期成績】：中間試験と期末試験を実施し、各試験の平均を後期最終成績とする。 →中間試験は１次卒業試験、期末試験は2次卒業試験内の柔整関連医学Ⅱ及び柔整社会学に該当する問題の得点の合計を100点換算し、その得点を柔整関連医学Ⅱの成績とする。 【年間成績】：後期最終成績を年間成績とする。
	【評価詳細】 ○中間試験の評価割合：中間試験（100%） →1次卒業試験の午前問題1～5・38～50・107～128、午後問題1～67の計107問の得点を100点換算 ○期末試験の評価割合：期末試験（100%） →2次卒業試験の午前問題1～5・38～50・107～128、午後問題1～67の計107問の得点を100点換算
担当教員から一言	国家試験合格へ向けて、押さえるべきポイントを明確にして、効率よく理解できるように授業を展開していきます。重要ポイントを明確にする方法がわかれば、他教科への展開も可能になるので、信じてついてきて下さい。
自主学習	予習：次回の実施項目に該当する国家試験問題を解き、自身での当該項目の理解度を確認しておく。 復習：実施項目で自身の理解が足りていない部分をノートにまとめておく。
オフィスアワー	後期：月～金　9：00～17：45　　２Ｆ　柔整科職員室　※授業開講時間を除く

【授業計画】

学期	回数	授業内容	到達目標(SBOs)	授業形態
後期	1	損傷、炎症と外科感染症	・疾病の成り立ち、外科診断治療学Ⅰ、外科診断治療学Ⅱに関する知識を柔道整復の臨床で応用可能な知識に変換し説明できる。	講義
	2	腫瘍、ｼｮｯｸ、輸血・輸液		講義
	3	消毒と滅菌、手術、麻酔		講義
	4	移植と免疫、出血と止血、心肺蘇生法		講義
	5	脳神経外科疾患		講義
	6	胸壁・呼吸器疾患		講義
	7	腹部外科疾患		講義
	8	病理学とは、疾病の一般 細胞傷害（退行性病変、代謝障害）		講義
	9	後期中間試験		試験
	10	循環障害	・疾病の成り立ち、外科診断治療学Ⅰ、外科診断治療学Ⅱに関する知識を柔道整復の臨床で応用可能な知識に変換し説明できる。	講義
	11	進行性病変（病的増殖）と細胞・組織の適応		講義
	12	炎症		講義
	13	免疫異常、ｱﾚﾙｷﾞｰ		講義
	14	腫瘍、ｼｮｯｸ、輸血・輸液		講義
	15	先天性異常		講義
	16	病因		講義
	17	まとめ		講義
	18	後期期末試験		試験

2024年度　柔道整復科

【分野】　専門分野　臨床柔道整復学

【科目】　柔整関連医学Ⅱ

【基本情報】					
配当年次	3学年		担当教員	横井　大遥	実務経験内容 （関連業務・所属・資格等）
単位数	2単位			よこい　とものり	接骨院勤務(5年) 学校法人　呉竹学園附属施術所(3年)
必修・選択	必修		時間数	36	
開講学期	前期	後期	授業形態・回数	講義	18 回

【授業情報】	
授業概要	人体の機能回復論、柔道整復術の適応と鑑別Ⅰ、柔道整復術の適応と鑑別Ⅱで学習した各科目における重要事項を柔道整復師の業務と結び付け、臨床現場のどのような場面でその知識を必要とするかを考える。
実務経験の反映	整形外科と接骨院での患者さんの特徴や対応、施術法について、自身の経験に基づき柔道整復学と整形外科学及びリハビリテーション医学の密接な関わりの実際を伝えていく。
関連科目	２年次：「人体機能回復論」「柔道整復術の適応と鑑別Ⅰ」 ３年次：「柔道整復術の適応と鑑別Ⅱ」
授業の方法	実施項目の内容の講義及び確認テストを反復し確実な知識の定着を図る。
授業の一般目標 (GIO)	・人体の機能回復論、柔道整復術の適応と鑑別Ⅰ、柔道整復術の適応と鑑別Ⅱで修得した知識を、卒業後の臨床現場で応用できる知識に変換し説明できる。

【担当教員から】	
教科書	「リハビリテーション医学」「整形外科学」
参考書	特になし
成績評価基準	○授業の理解度 ・基本的知識の修得 ・知識の習熟度と修得した知識の応用能力の有無 →後期に行う中間試験（1次卒業試験）、期末試験（2次卒業試験）で評価する。
成績評価方法	【後期成績】：中間試験と期末試験を実施し、各試験の平均を後期最終成績とする。 →中間試験は１次卒業試験、期末試験は2次卒業試験内の柔整関連医学Ⅱ及び柔整社会学に該当する問題の得点の合計を100点換算し、その得点を柔整関連医学Ⅱの成績とする。 【年間成績】：後期最終成績を年間成績とする。 【評価詳細】 ○中間試験の評価割合：中間試験（100%） →1次卒業試験の午前問題1～5・38～50・107～128、午後問題1～67の計107問の得点を100点換算 ○期末試験の評価割合：期末試験（100%） →2次卒業試験の午前問題1～5・38～50・107～128、午後問題1～67の計107問の得点を100点換算
担当教員から一言	リハビリテーションと整形外科学は鑑別診断を行う為の基礎となる知識になります。 また、柔道整復学を理解するうえで土台となる非常に重要な内容です。粘り強く学習していきましょう。
自主学習	予習：次回の実施項目に該当する国家試験問題を解き、自身での当該項目の理解度を確認しておく。 復習：実施項目で自身の理解が足りていない部分をノートにまとめておく。
オフィスアワー	前期：火～土　9：00～17：45 後期：月～金　9：00～17：45　　２Ｆ　柔整科職員室　※授業開講時間を除く

【授業計画】

学期	回数	授業内容	到達目標(SBOs)	授業形態
後期	1	ICIDHとICFの分類 リハビリテーションの対象疾患	・人体の機能回復論、柔道整復術の適応と鑑別Ⅰ、柔道整復術の適応と鑑別Ⅱに関する知識を柔道整復の臨床で応用可能な知識に変換し説明できる。	講義
	2	整形外科的診察法・検査法 治療法及び骨折と関節の総論		講義
	3	関節可動域測定法・徒手筋力テスト 運動失調		講義
	4	感染性疾患 骨及び軟部腫瘍		講義
	5	日常生活動作の評価・運動療法 リハビリテーションの関連職種		講義
	6	非感染性疾患		講義
	7	治療技術・物理療法の種類と目的及び禁忌 牽引療法・マッサージの方法と注意点		講義
	8	骨系統疾患 スポーツ整形外科		講義
	9	後期中間試験		試験
	10	補装具の種類とその特徴	・人体の機能回復論、柔道整復術の適応と鑑別Ⅰ、柔道整復術の適応と鑑別Ⅱに関する知識を柔道整復の臨床で応用可能な知識に変換し説明できる。	講義
	11	骨端症		講義
	12	高齢者のリハビリテーション		講義
	13	四肢神経麻痺・循環障害		講義
	14	脊髄損傷		講義
	15	全身性の神経・筋疾患		講義
	16	体幹及び上肢の疾患		講義
	17	骨盤及び下肢の疾患		講義
	18	後期期末試験		試験

2024年度　柔道整復科

【分野】　専門分野　柔道整復実技

【科目】 柔整後療法

【基本情報】					
配当年次	3学年		担当教員	木ノ内　秀功	実務経験内容 （関連業務・所属・資格等）
単位数	1単位			きのうち　ひでき	鍼灸院・接骨院勤務（6年） 鍼灸接骨院開業（18年）
必修・選択	必修		時間数	36	
開講学期	前期	後期	授業形態・回数	講義	18 回

【授業情報】	
授業概要	運動器の機能構造Ⅰ、運動器の機能構造Ⅱ、基本診察治療法で修得した知識・技術を根拠として、柔整後療法の三本柱の一つである手技療法の技能を学ぶ。
実務経験の反映	柔道整復師・鍼師・灸師・按摩、マッサージ、指圧師の経験から柔整後療法への臨床に応用できる基本的な手技を学生に教えていく。
関連科目	１年次　：「運動器の機能構造Ⅰ」「柔整外傷論基礎」「柔整後療治療論」 ３年次　：「柔整応用治療論」 臨床実習：「臨床実習Ⅱ」「臨床実習Ⅲ」「臨床実習Ⅳ」の実習前評価（診察の補助・施術の補助）
授業の方法	マッサージの基本手技を覚え、各部位ごとに筋肉の確認をし、手技のやり方を見せ、1対1でお互いに手技の反復練習を行う。
授業の一般目標（GIO）	・手技療法の基本的技術を身に付け、身体各部に基本的な手技を施すことができる。

【担当教員から】	
教科書	特になし
参考書	特になし
成績評価基準	○授業の理解度 ・基本的知識、技能の修得 ・知識、技能の習熟度と応用能力の有無 →前期に行う期末試験で評価する。
成績評価方法	【前期成績】：期末試験を実施し、その成績を前期最終成績とする。 【年間成績】：前期最終成績を年間成績とする。
	【評価詳細】 ○期末試験の評価割合：実技技能試験（100%）
担当教員から一言	患者様への「手当て」として手技療法は大変役立つのでしっかり基本を覚えて下さい。
自主学習	予習：必要なし 復習：必須
オフィスアワー	前期：月　9：30～15：00　　２Ｆ　柔整科職員室　※授業開講時間を除く

【授業計画】

学期	回数	授業内容	到達目標(SBOs)	授業形態
前期	1	基本手技	・軽擦法、揉捏法、圧迫法、振せん法、叩打法の手法を理解し実施できる。	実技
	2			実技
	3	座位での手技療法	・肩背部に基本手技が実施できる。 ・上肢に基本手技が実施できる。 ・頸部に基本手技が実施できる。 ・頭部に基本手技が実施できる。	実技
	4			実技
	5			実技
	6	側臥位での手技療法	・肩背及び腰部に基本手技が実施できる。 ・頸部に基本手技が実施できる。 ・上肢に基本手技が実施できる。 ・臀部に基本手技が実施できる。 ・下肢に基本手技が実施できる。	実技
	7			実技
	8			実技
	9	腹臥位での手技療法	・肩上・肩背及び腰部に基本手技が実施できる。 ・臀部に基本手技が実施できる。 ・下肢に基本手技が実施できる。 ・頸部に基本手技が実施できる。 ・上肢に基本手技が実施できる。	実技
	10			実技
	11			実技
	12			実技
	13			実技
	14	背臥位での手技療法	・下肢に基本手技が実施できる。 ・腹部へ基本手技が実施できる。 ・頸部に基本手技が実施できる。 ・胸部に基本手技が実施できる。 ・上肢に基本手技が実施できる。	実技
	15			実技
	16			実技
	17			実技
	18	前期期末試験		試験

2024年度　柔道整復科

【分野】　専門分野　柔道整復実技

【科目】　柔整応用治療法Ⅰ

【基本情報】

配当年次	3学年		担当教員	千田　由美子	実務経験内容 （関連業務・所属・資格等）
単位数	2単位			ちだ　ゆみこ	接骨院勤務(5年) 学校法人　呉竹学園附属施術所(12年)
必修・選択	必修		時間数	72	
開講学期	前期	後期	授業形態・回数	実技	36 回

【授業情報】

授業概要	この授業では、柔整外傷論基礎、柔整外傷保存療法、上肢の損傷治療論、下肢の損傷治療論、応用診察治療法で修得した知識、技能をもとに認定実技審査の出題項目に基づく外傷に対しての診察及び施術のシミュレーションを行う。 前期は診察から施術までのシミュレーションを中心に行い、後期は整復法、固定法、検査法を体系的に実施する。
実務経験の反映	教科書ベースの知識をどのように活用すれば、実際の臨床現場で応用できるのかを自身の現場経験を踏まえ伝える。
関連科目	１年次　：「柔整外傷論基礎」「柔整外傷保存療法」 ２年次　：「上肢の損傷・治療論」「下肢の損傷・治療論」「応用診察治療法」
授業の方法	該当する外傷の施術に関する座学的知識を先行して教授し、知識を整理したうえで実技に臨む。学生モデルを用いたデモンストレーションを行い、グループでの練習を行っていく。また整復シミュレーターや視覚教材を用いて、実際の整復をイメージしやすくしていく。
授業の一般目標 (GIO)	・提示された外傷の施術法を理解し説明できる。 ・提示された外傷の診察～整復のシミュレーションが実施できる。 ・提示された外傷に対する固定が実施できる。 ・提示された軟部組織損傷に対する検査法が実施できる。

【担当教員から】

教科書	「柔道整復学・理論編」「柔道整復学・実技編」
参考書	特になし
成績評価基準	○授業の理解度 ・基本的知識、技能の修得 ・知識、技能の習熟度と応用能力の有無 →前期・後期に行う期末試験で評価する。
成績評価方法	【評価方法】 ○前期成績：期末試験（100点満点）を実施し、その成績を前期最終成績とする。 ○後期成績：期末試験（100点満点）を実施し、その成績を後期最終成績とする。 ※後期期末試験は学内実技試験（100点満点）と認定実技審査（100点満点）を実施し、その平均を後期期末試験の成績とする。 ○年間成績：前期最終成績と後期最終成績の平均を年間成績とする。 【評価詳細】 ○前期期末試験の評価割合：実技知識確認試験(50%)、実技技能試験（50%） ○後期期末試験の評価割合：実技技能試験（100%）
担当教員から一言	実際の外傷を想定したシミュレーションは、いままで学習した知識と技能の集大成になります。対応する外傷の数が多いので大変だと思いますが、臨床家としての最後の仕上げの授業となりますので頑張りましょう。
自主学習	予習：必要なし 復習：必須
オフィスアワー	前期：火～土　9：00～17：45 後期：火～土　9：00～17：45　　２Ｆ　柔整科職員室　※授業開講時間を除く

【授業計画】

学期	回数	授業内容	到達目標(SBOs)	授業形態
前期	1	鎖骨骨折の施術	・鎖骨骨折の損傷形態を把握し、その整復及び固定の手法が説明できる。 ・鎖骨骨折の損傷形態を把握し、整復操作が実施できる。	実技
	2			実技
	3	上腕骨外科頸骨折の施術	・上腕骨外科頸骨折の損傷形態を把握し、その整復及び固定の手法が説明できる。 ・上腕骨外科頸骨折の損傷形態を把握し、整復操作が実施できる。	実技
	4			実技
	5	コーレス骨折の施術	・コーレス骨折の損傷形態を把握し、その整復及び固定の手法が説明できる。 ・コーレス骨折の損傷形態を把握し、整復操作が実施できる。	実技
	6			実技
	7	肩鎖関節上方脱臼の施術	・肩鎖関節上方脱臼の損傷形態を把握し、その整復及び固定の手法が説明できる。 ・肩鎖関節上方脱臼の損傷形態を把握し、整復操作が実施できる。	実技
	8			実技
	9	肩関節烏口下脱臼の施術	・肩関節烏口下脱臼の損傷形態を把握し、その整復及び固定の手法が説明できる。 ・肩関節烏口下脱臼の損傷形態を把握し、整復操作が実施できる。	実技
	10			実技
	11	肘関節後方脱臼の施術	・肘関節後方脱臼の損傷形態を把握し、その整復及び固定の手法が説明できる。 ・肘関節後方脱臼の損傷形態を把握し、整復操作が実施できる。	実技
	12			実技
	13	肘内障の施術	・肘内障の損傷形態を把握し、整復操作が実施できる。	実技
	14	腱板損傷、上腕二頭筋長頭腱損傷の施術	・腱板損傷、上腕二頭筋長頭腱損傷の損傷形態を把握し、適切な検査を実施できる。	実技
	15	ハムストリングスの損傷、大腿四頭筋打撲の施術	・ハムストリングスの損傷、大腿四頭筋打撲の損傷形態を把握し、適切な検査を実施できる。	実技
	16	膝関節軟部組織損傷の施術	・膝関節軟部組織（側副靭帯・十字靭帯・半月板）損傷の損傷形態を把握し、適切な検査を実施できる。	実技
	17	下腿三頭筋損傷、足関節外側靭帯損傷の施術	・下腿三頭筋損傷、足関節外側靭帯損傷の損傷形態を把握し、適切な検査を実施できる。	実技
	18	前期期末試験		試験
後期	19	骨折及び脱臼の診察と整復	・来院した患者モデルに対し、適切な患者対応のシミュレーションが実践できる。 ・模擬患者の訴える症状から、各種診察の手法を駆使し損傷を判定し、想定した損傷に対する適切な整復のシミュレーションが実践できる。	実技
	20			実技
	21			実技
	22			実技
	23			実技
	24			実技
	25			実技
	26			実技
	27			実技
	28			実技
	29			実技
	30	軟部組織損傷の診察と検査	・来院した患者モデルに対し、適切な患者対応のシミュレーションが実践できる。 ・模擬患者の訴える症状から、各種診察の手法を駆使し損傷を判定し、想定した損傷に対する適切な検査法のシミュレーションが実践できる。	実技
	31			実技
	32			実技
	33			実技
	34			実技
	35			実技
	36	後期期末試験		試験

2024年度　柔道整復科

【分野】　専門分野　柔道整復実技

【科目】　柔整応用治療法Ⅱ

【基本情報】

配当年次	3学年		担当教員	高橋　良仁	実務経験内容 （関連業務・所属・資格等）
単位数	1単位			たかはし　よしひと	整形外科勤務(7年)・接骨院開業（4年） 学校法人　呉竹学園附属施術所(11年)
必修・選択	必修		時間数	36	
開講学期	前期	後期	授業形態・回数	実技	18 回

【授業情報】

授業概要	この授業では、柔整外傷論基礎、柔整保存療法、上肢の損傷治療論、下肢の損傷治療論、応用診察治療法で修得した知識、技能をもとに認定実技審査の出題項目に基づく外傷に対しての固定のシミュレーションを行う。 前期は上記固定法のシミュレーションを主体に行い、夏期期間の柔整応用治療法Ⅱは当該授業及び柔整応用治療法Ⅰ前期の内容を受け認定実技に対応した形式のシミュレーションを行う。
実務経験の反映	教科書ベースの知識をどのように活用すれば、実際の臨床現場で応用できるのかを自身の現場経験を踏まえ伝える。
関連科目	１年次　：「柔整外傷論基礎」「柔整外傷保存療法」 ２年次　：「上肢の損傷・治療論」「下肢の損傷・治療論」「応用診察治療法」
授業の方法	教科書をベースに当該項目の説明実施後にデモンストレーションを行い、グループごとの練習を行っていく。
授業の一般目標 (GIO)	・提示された外傷に対する固定が実施できる。 ・提示された軟部組織損傷に対する検査法が実施できる。

【担当教員から】

教科書	「柔道整復学・理論編」「柔道整復学・実技編」
参考書	・配布プリント
成績評価基準	○授業の理解度 ・基本的知識、技能の修得 ・知識、技能の習熟度と応用能力の有無 →前期・後期に行う期末試験で評価する。
成績評価方法	【評価方法】 ○前期成績：期末試験（100点満点）を実施し、その成績を前期最終成績とする。 ○後期成績：期末試験（100点満点）を実施し、その成績を後期最終成績とする。 ※後期期末試験は学内実技試験（100点満点）と認定実技審査（100点満点）を実施し、その平均を後期期末試験の成績とする。 ○年間成績：前期最終成績と後期最終成績の平均を年間成績とする。
	【評価詳細】 ○前期期末試験の評価割合：実技知識確認試験(50%)、実技技能試験（50%） ○後期期末試験の評価割合：実技技能試験（100%）
担当教員から一言	柔道整復師養成施設の卒業判定を受けるためには、学科試験の単位認定の他に認定実技審査に合格しなければなりません。この科目は認定実技審査に対応したもので、特に外固定法を学ぶものです。卒業後、質の高い柔道整復師となる為に授業を展開していきますので、皆さん頑張りましょう。
自主学習	予習：必要なし 復習：必須
オフィスアワー	前期：月　9：00～16：40 後期：月　9：00～16：40　　２Ｆ　柔整科職員室　※授業開講時間を除く

【授業計画】

学期	回数	授業内容	到達目標(SBOs)	授業形態
前期	1	下腿骨骨幹部骨折の固定	・下腿骨骨幹部骨折の損傷形態を把握し、クラーメル副子を用いて患部を固定することができる。	実技
	2	アキレス腱断裂の固定	・アキレス腱断裂の損傷形態を把握し、クラーメル副子を用いて患部を固定することができる。	実技
	3	膝関節内側側副靭帯損傷の固定	・膝関節内側側副靭帯の損傷形態を把握し、クラーメル副子を用いて患部を固定することができる。	実技
	4	足関節外側靭帯損傷の固定	・足関節外側靭帯損傷の損傷形態を把握し、局所副子を用いて患　部を固定することができる。 ・足関節外側靭帯損傷の損傷形態を把握し、バスケットウェーブ　固定及びフィギュアエイト・ヒールロック固定を施せる。	実技
	5			実技
	6	肋骨骨折の固定	・肋骨骨折の損傷形態を把握し、さらし及び厚紙副子を用いて患部を固定することができる。	実技
	7	鎖骨骨折の固定	・鎖骨骨折の損傷形態を把握し、背側8字帯及びSayreの絆創膏テープ固定を実施し患部を固定することができる。	実技
	8	上腕骨骨幹部骨折の固定	・上腕骨骨幹部骨折の損傷形態を把握し、ミッデルドルフ三角副子を用いて患部を固定することができる。	実技
	9	コーレス骨折の固定	・コーレス骨折の損傷形態を把握し、クラーメル副子と局所副子を用いて患部を固定し、三角巾にて提肘ができる。	実技
	10	ボクサー骨折の固定 手第2指ＰＩＰ関越背側脱臼の固定	・ボクサー骨折の損傷形態を把握し、アルミ副子掌側固定を施すことができる。 ・手第2指ＰＩＰ関越背側脱臼の損傷形態を把握し、アルミ副子背側固定を施すことができる。	実技
	11	肩鎖関節上方脱臼の固定	・肩鎖関節上方脱臼の損傷形態を把握し、ロバートジョーンズの絆創膏テープ固定により患部を固定することができる。	実技
	12	肩関節烏口下脱臼の固定	・肩関節烏口下脱臼の損傷形態を把握し、局所副子及び肩部麦穂帯により患部を固定し、三角巾にて提肘ができる。	実技
	13	肘関節後方脱臼の固定	・肘関節後方脱臼の損傷形態を把握し、クラーメル副子を用いて患部を固定し、三角巾にて提肘ができる。	実技
	14	総復習	・提示された外傷に対し、患者モデル及び助手に指示を出し適切な整復終了位を取らせることができる。 ・提示された外傷に対し、最も適切な固定具を選択し患者モデルに対し固定を実践することができる。	実技
	15			実技
	16			実技
	17			実技
	18	前期期末試験		試験

2024年度　柔道整復科

【分野】　専門分野　柔道整復実技

【科目】　柔整応用治療法Ⅱ

【基本情報】				
配当年次	3学年	担当教員	柔道整復科専任教員	工藤大介　千田由美子　安原省吾 東佑樹　本田泰之
単位数	1単位		柔道整復科非常勤講師	高橋　良仁
必修・選択	必修	時間数	36	
開講学期	夏期実技授業	授業形態・回数	実技	18 回

【授業情報】	
授業概要	この授業では、柔整応用治療法Ⅰ前期、柔整応用治療法Ⅱ①で修得した技能を、認定実技審査の審査の審査形式に当てはめ実施していく。主に外傷の診察～整復までの一連の流れと、整復終了位からの固定にパートを分けそれぞれの審査項目を確認しながら、審査に対応できるように練習を行う。
実務経験の反映	各担当者の臨床での経験を、それぞれの視点から学生に伝え実際の活用法を理解させる。
関連科目	１年次　：「柔整外傷論基礎」「柔整外傷保存療法」 ２年次　：「上肢の損傷・治療論」「下肢の損傷・治療論」「応用診察治療法」
授業の方法	夏期実技集中期間までに、実施した授業内容を振り返り内容を確認したうえで、4人1組のグループごとに、時間を計りローテーションで審査を想定した模擬練習を行う。
授業の一般目標 (GIO)	・認定実技審査の出題項目に対し、指定された時間内に審査項目に準じ審査～整復が実施できる。 ・認定実技審査の出題項目に対し、指定された時間内に審査項目に準じ固定が実施できる。

【担当教員から】	
教科書	「柔道整復学・理論編」「柔道整復学・実技編」
参考書	特になし
成績評価基準	○授業の理解度 ・基本的知識、技能の修得 ・知識、技能の習熟度と応用能力の有無 →前期・後期に行う期末試験で評価する。
成績評価方法	【評価方法】 ○前期成績：柔整応用治療法Ⅱ①の成績を前期最終成績とする。 ○後期成績：期末試験（100点満点）を実施し、その成績を後期最終成績とする。 ※後期期末試験は学内実技試験（100点満点）と認定実技審査（100点満点）を実施し、その平均を後期期末試験の成績とする。 ○年間成績：前期最終成績と後期最終成績の平均を年間成績とする。
	【評価詳細】 ○前期期末試験の評価割合：実技知識確認試験(50%)、実技技能試験（50%） ○後期期末試験の評価割合：実技技能試験（100%）
担当教員から一言	11月の認定実技審査に向けて、技能を高めるために2週間連続で実技を行います。今までにない授業のスケジュールなのでハードな期間になると思いますが、夏のうちに頑張れば間違いなく試験に合格できますので頑張りましょう。
自主学習	予習：夏休み前に実施した内容を、授業当日までに確認しておくこと。 復習：必須
オフィスアワー	夏期：月～金　9：00～17：45　　２Ｆ　柔整科職員室　※授業開講時間を除く

【授業計画】

学期	回数	授業内容	到達目標(SBOs)	授業形態
夏期	1	鎖骨骨折の診察法～整復法	・患者の主訴に対し診察を実施し、損傷を判定したうえで適切な整復法を選択し実施することができる。	実技
	2	上腕骨外科頚骨折の診察法～整復法		実技
	3	コーレス骨折の診察法～整復法		実技
	4	肩鎖関節上方脱臼の診察法～整復法		実技
	5	肩関節烏口下脱臼の診察法～整復法		実技
	6	肘関節後方脱臼の診察法～整復法		実技
	7	肘内障の診察法～整復法		実技
	8	腱板損傷の診察法～整復法	・患者の主訴に対し診察を行い、損傷を想定したうえで各種徒手検査法を実施しその検査所見より損傷を判定することができる。	実技
	9	上腕二頭筋長頭腱損傷の診察法～検査法		実技
	10	ハムストリングス損傷の診察法～検査法		実技
	11	大腿四頭筋打撲の診察法～検査法		講義
	12	下腿三頭筋損傷の診察法～検査法		講義
	13	膝側副靭帯損傷の診察法～検査法		講義
	14	膝半月板損傷の診察法～検査法		講義
	15	膝十字靭帯損傷の診察法～検査法		講義
	16	足関節外側靭帯損傷の診察法～検査法		講義
	17	軟部組織損傷総合		講義
	18	後期期末試験		試験

2024年度　柔道整復科

【分野】　専門分野　臨床実習

【科目】　臨床実習Ⅳ

【基本情報】

配当年次	3学年		担当教員	火曜日：林　雄祐　（はやし　ゆうすけ） 水曜日：東　佑樹　（あずま　ゆうき） 木曜日：本田　泰之（ほんだ　やすゆき）	
単位数	1単位				
必修・選択	必修		時間数	48	
開講学期	前期	後期	授業形態・回数	実習	24 回

【授業情報】

授業概要	臨床実習Ⅰ、臨床実習Ⅱ、臨床実習Ⅲでの経験、基本診察法Ⅰ、固定法Ⅰ、固定法Ⅱ、応用診察治療法、外傷予防法、柔整後療法で修得した技術、柔整後療治療論、柔道整復師の業務と職業倫理で修得した知識をもとに、付属施術所にて患者の診察の補助及び施術の補助を指導者の指導のもと実施する。
関連科目	１年次：「臨床実習Ⅰ」 ２年次：「臨床実習Ⅱ」「臨床実習Ⅲ」 「応用診察治療法」「外傷予防法」→臨床実習前施術評価試験
授業の一般目標 (GIO)	・柔道整復師として患者の前に出るに相応しい立ち居振る舞いを身に付ける。 ・付属施術所指導者の指導のもと付属施術所での基本業務を理解し実施することができる。 ・付属施術所指導者の指導のもと患者に対しての診察及び検査法の一部を補助することができる。 ・付属施術所指導者の指導のもと患者に対しての診察及び施術の一部を補助することができる。 ・付属施術所指導者の指導のもと療養費支給申請業務の一部を補助することができる。

【担当教員から】

教科書	特になし
参考書	特になし
成績評価基準	○実習に対する意欲と積極的な取り組み ・臨床実習の意義の理解と積極的な実習への取り組み ○実習を通じて養われる柔道整復師としてのプロフェッショナリズム ・患者に対する態度、立ち居振る舞い、相手の気持ちに立ち考えることができる心
成績評価方法	【年間成績】：①評価項目に則る各実習毎の指導者からの評価　②各実習毎のレポート提出 ③最終実習終了後のレポート提出 ①～③の内容を総合的に評価し年間成績とする。
	【その他】

【授業計画】

学期	回数	授業内容	到達目標(SBOs)	授業形態
前期	1	附属施術所実習①	・画像や症例を提示し、超音波画像観察装置を使い疑わしい部位を描出することができる。 ・画像や症例を提示し、必要な検査が実施できる。	実習
	2			実習
	3			実習
	4			実習
	5			実習
	6			実習
	7			実習
	8			実習
	9	附属施術所実習②	・ホワイトテーピングを臨床で実践できる。 ・キネシオテープを臨床で実践できる。 ・スポーツ外傷への理解を深め応急処置ができる。 ・スポーツ現場で起こる事故の対処法を理解し実施できる。 ・スポーツトレーナーの仕事を理解できる。 ・外傷の対処法を実施できる。 ・機能訓練指導員の仕事を理解できる。 ・機能訓練指導員と介護の仕事を理解できる。	実習
	10			実習
	11			実習
	12			実習
	13			実習
	14			実習
	15			実習
	16			実習
	17	診察概論 腰痛の基礎知識	・SOAP方式に基づく診察ができる ・不良姿勢の原因を推測できる ・腰痛に関する機能解剖を理解できる。	実習
	18			実習
	19	仙腸関節性腰痛	・ROMの結果を考察することができる ・MMTの結果を考察することができる ・徒手検査の結果を考察することができる ・徒手検査の理屈を説明できる ・徒手検査を実践できる ・疾患に対する総合的な判断ができる ・疾患に対する総合的な治療方針を立案することができる ・必要な運動を処方できる ・運動指導を実践できる	実習
	20			実習
	21	椎間関節性腰痛		実習
	22			実習
	23	総合演習	・症例に対し、診察から治療方針を立てることができる。	実習
	24			実習